

いしかわ気候変動適応センター通信 第6号

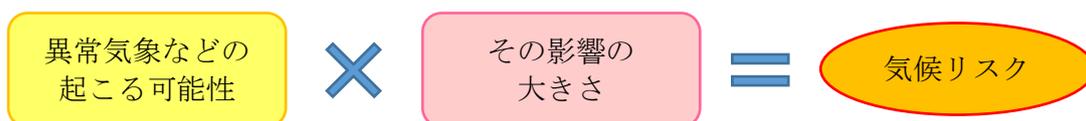
大雪のリスク

地球温暖化に伴い、降雪・積雪は減少すると予測されていますが、平均的な降雪量が減少したとしても、ごくまれに降る大雪のリスクが低下するとは限らないと言われています。

気候リスクを認識する

気候は生活や産業に様々な影響を与えます。例えば、冬の気温が平年よりも低ければ、秋冬物衣料や使い捨てカイロ、ホット飲料などの売り上げが落ちるといった影響があります。

気象庁によると、このように気候によって影響を受ける可能性のことを「気候リスク」といいます。気候リスクは「異常気象などの影響を与える気候が起こる可能性」と「その影響の大きさ」の掛け算と考えるとイメージすることができます。



気候リスクを軽減する

こうした気候リスクを軽減するため、気候情報（過去の統計値や季節予報など）などを用いて気候リスクを把握し対応することを気候リスク管理といいます。

気候リスクの軽減のためには気候リスクの認識・評価・対応の3つのプロセスが有効であり、まずは、身の回りの気候リスクを認識することが必要です。

気候リスク（雪）についての情報収集



(1) 気象庁「今後の雪」(<https://www.jma.go.jp/bosai/snow/>)

気象庁では6時間先までの積雪の深さと降雪量の分布を約5km四方の細かさで予報する「降雪短時間予報」を提供しています。現在までの雪の状況に加えて、6時間先までの雪の予報を確認することができます。（1時間毎に更新）

(2) 石川の雪みちナビ (<http://www.pref.ishikawa.jp/michi/yuki.htm>)

冬期道路情報（石川みち情報ネット）により、降積雪量・気温、道路監視カメラ画像、通行規制情報を確認することができます。その他、本県の冬期交通確保計画に関する情報等を提供しています。

<石川県気候変動適応センター>

事務局：石川県生活環境部温暖化・里山対策室

電話：076-225-1462 FAX：076-225-1479 メール：ontai@pref.ishikawa.lg.jp

HP：<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/tekiou/index.html>